



市民ネットワーク鶴ヶ島は  
大野ひろ子を  
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	NO. 22

12月議会報告 2017. 2

発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島  
鶴ヶ島市富士見3-27-106

<http://www.tsuru-net.org/>

eメール: [tsurunetorg@gmail.com](mailto:tsurunetorg@gmail.com)



# 議員年金制度は必要ですか!?

2016年夏、富山市議会で政務活動費の不正が相次ぎ、元市議会議長は「議員年金廃止で老後の保障がなくなり心配になった」と説明しました。  
その、議員年金制度が、姿を変えて復活しようとしています。

地方議員の年金制度は、議員の掛け金と自治体の負担金によって運営されてきましたが、平成の大合併や議員定数の削減で、掛け金を支払う議員数が減ったことから財政が破綻し、2011年に廃止になりました。

廃止といっても、既に年金を受給している人と、それまでに3期12年掛け金を支払った議員には受給資格が保証されています。制度の廃止で現職議員は掛け金の徴収はありませんから、全額公費負担となっています。

当時総務省は、年金給付が終了するまでには、少なくとも60年かから、その費用負担は総額1兆3600億円になると試算しています。

## 議員年金が厚生年金に?

昨年の統一地方選で、平均投票率が過去最低になったことや、無投票当選者の割合が高くなったことを理由に、全国都道府県議会議長会では、地方議員が厚生年金に加入できるようにと法整備を求めています。

地方議員が厚生年金制度に加入するとすれば、各自治体が掛け金の半分を支払うことになり、また新たな税負担を伴います。

少子高齢化が進み、今や2・3人で1人の高齢者を支えている時代です。

不安定な非正規雇用も増え、多くの市民が老後に不安を感じています。国民年金だけでは生活できないという不安を抱えているのは議員だけではありません。

だからこそ議員は、同じ不安を抱える市民のためになる政策を、考えるべきではないでしょうか。

市政でも、公営住宅を増やす等、不安解消のためにできる事はたくさんあると思います。

## 政治への信頼はどのくらい

若者が議員になれない、地方議員のなり手がなくなるといった課題については、政治への信頼や期待を取り戻すことが本来の姿勢と言えます。

2016年秋以降、全国的に「地方議員の厚生年金への加入を求める意見書」の提出を求める動きがありますが、鶴ヶ島市議会は、12月議会では議案にとりあげていません。

鶴ヶ島市は、議員年金制度の廃止から、5年間で約2億2000万円拠出しています。

